

千里新田小学校保護者説明会
千里新田地区の地域説明会

平成14年(2002年)4月14日開催
平成14年(2002年)4月21日開催

説明会資料

学校規模の適正化を進めます

平成14年(2002年)4月

吹田市教育委員会

1. 学校規模適正化の検討経過

吹田市では、小学校は昭和56年(1981年)の36,406人、中学校は昭和61年(1986年)の17,167人をピークとして、その後児童生徒数が減少しつづけ、今年度4月8日現在小学校の児童数は19,414人、中学校の生徒数は8,814人となっています。そのため、学校規模は全体として小規模化が進んでいますが、一部の地域では住宅開発などにより大規模化している学校もあります。このように、学校規模が非常にアンバランスな状況になっていることから、市教育委員会では平成12年度(2000年度)に学識経験者や学校・PTA・地域関係者、公募市民などによる「吹田市立学校適正規模検討会議」を設置して、適正規模の考え方や今後の適正化の方向性などについて検討していただきました。その検討会議の検討のまとめが平成13年(2001年)3月28日に意見書として教育委員会に提出されました。

【意見書のおもな内容】

適正規模の考え方について

小学校の適正規模 12学級～24学級

許容範囲 7学級～11学級の学校で特筆すべき教育が期待できる場合

中学校の適正規模 12学級～18学級

許容範囲 11学級以下の学校で特筆すべき教育が期待できる場合
19学級～21学級

適正化の今後の方向性について

(1) 大規模校の適正化について

- ・ 現在の教育改革の流れは、これまでのように普通教室での一斉授業を中心とした教育から、体験活動を重視した教育や、情報機器などを活用した多用な学習方法による教育を重視する方向へ進んでいる。また、きめ細かな指導を行うために、教科によっては少人数集団で教育を行う方向にある。こうした今の教育の流れにハード面での対応が困難な大規模校については、優先的に適正化に取り組む必要がある。
- ・ 今後、許容範囲を上回ると予想される学校については、通学時間や通学路の問題などを含めた個別の事情を十分に考慮しながら、校区の調整などの手段によって早急に許容規模・適正規模が維持されるよう検討すべきである。
- ・ 中学校の規模の適正化については、中学校だけで校区の調整を考えた場合に、全市的な中学校区の再編に結びつく可能性があることや、小学校と中学校の接続関係についても考慮する必要があることから、原

則として、小学校の規模の適正化を図ることにより達成する方向で考える。

(2) 小規模校の適正化について

- ・ 小規模校については、適正規模を下回る場合でも、ある程度の規模までは工夫によりデメリットを補うことも可能である。そのため、個に応じた教育の推進や、地域に開かれた学校づくりによる人間関係の活性化などの特色ある教育が行われるように促し、その状況を見極めながら適正化を検討する。
- ・ 許容範囲をも下回る学校については、集団生活の良さを生かすにくいことや、集団生活を通して培われる様々な資質や能力の向上が期待しにくいことから、早期に適正化に取り組む必要があり、個別の事情等を十分考慮しながら校区の調整や学校の統合などの手段によって早急に許容規模・適正規模が維持されるようにすべきである。
- ・ 竹見台小学校と南竹見台小学校については、同じ敷地の中にあるという立地状況から別途議論したが、2校ともに校区が狭く、今後も6学級程度の学校規模が続くことが予想されるため、統合することが望ましい。

教育委員会ではこの意見書を受けて、教育委員会内部にプロジェクトチームを設置して適正規模の基本的な考え方と具体的な適正化方策を検討し、平成14年(2002年)3月4日に「吹田市立小・中学校の適正規模についての基本的な考え方」と「吹田市立小・中学校の規模適正化第1期実施計画」をまとめました。今後は、子どもたちにとってより良い教育条件を整備するという基本的な考えの下に、この実施計画に基づいて適正化を進めます。

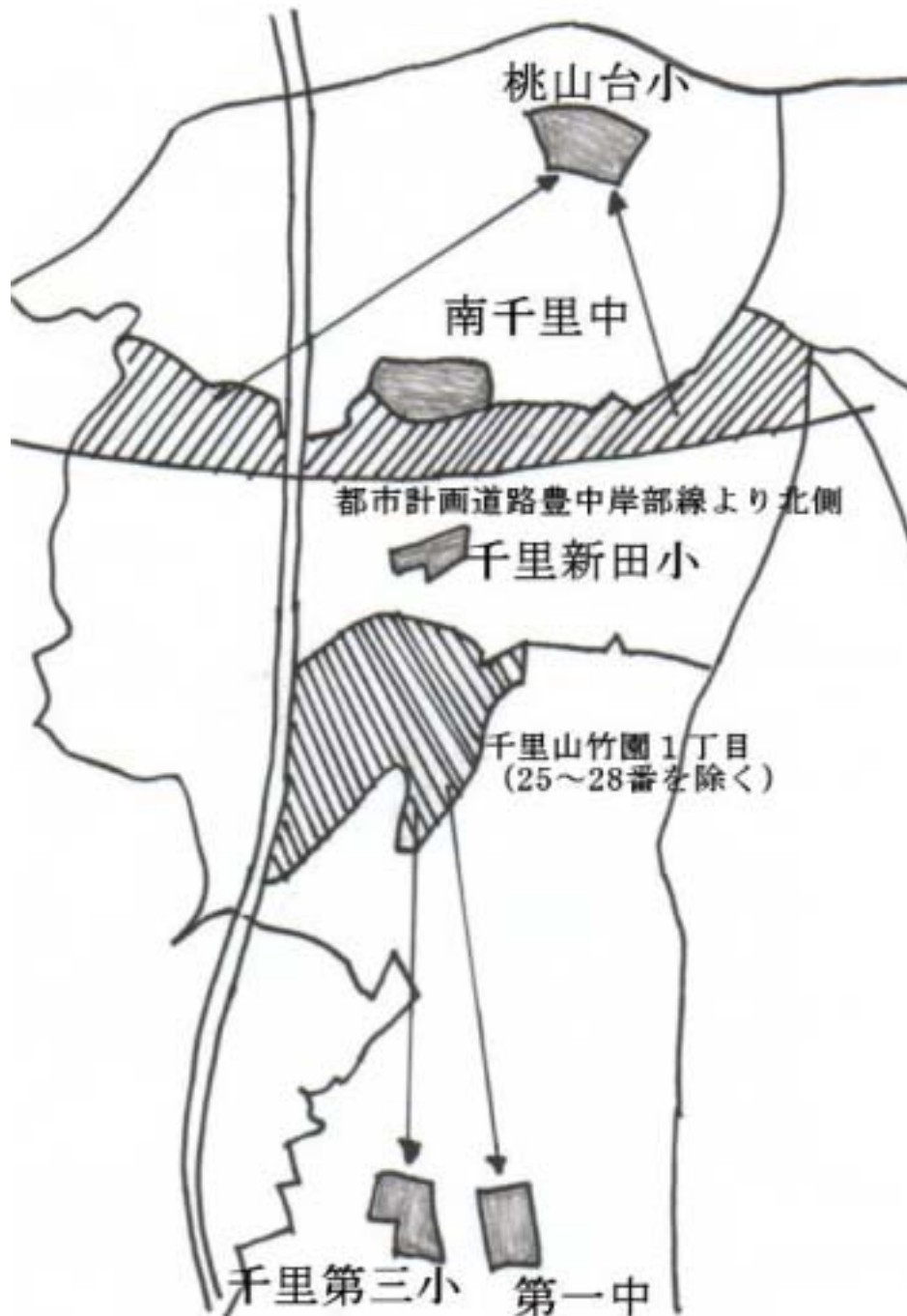
2. 学校規模適正化の具体的な方策について

学校規模適正化を実施するにあたっての具体的な方策については、小規模校は学校の統合と校区の調整、大規模校は校区の調整を行うことを基本と考えています。また、中学校の規模適正化については、小学校の適正化の実施により達成することを基本としています。

千里新田小学校の規模適正化についても、この基本的な考えの下に検討し、次のとおり校区変更を実施することになりました。

平成15年(2003年)4月より、建設予定の都市計画道路豊中岸部線より北側の地域の千里山西6丁目58～64番、千里山竹園2丁目17～25番、春日4丁目20番、春日3丁目19～20番を桃山台小学校区に、千里山竹園1丁目(25～28番を除く)を千里第三小学校区・第一中学校区に変更します。

なお、平成14年度(2002年度)の在校生については、現在在籍されている学校に卒業まで通学できます。



【都市計画道路より北側の地域と竹園1丁目(25～28番を除く)を変更することになった理由】

千里新田小学校は、桃山台小学校、千里第三小学校、千里第二小学校の3つの小学校区と接しており、この3つの小学校のいずれかに校区を一部変更することにより規模の適正化を図ることを検討しました。このうち千里第二小学校については、佐井寺小学校の適正化に伴う児童数の増加によってほぼ適正規模の上限となるため、桃山台小学校と千里第三小学校を校区受け入れ先の対象としました。また、飛び地のような形で校区をつくることはあまり好ましくないとの理由から、桃山台小学校区、千里第三小学校区に隣接している地域の校区変更を検討しました。桃山台小学校区の隣接地域には、千里山西6丁目、千里山竹園2丁目、春日3丁目、春日4丁目があり、できるだけ町丁単位で変更することが望ましいのですが、通学距離を考慮して建設予定の都市計画道路より北側地域を変更することにしました。また、千里第三小学校区に隣接している地域には、千里山6丁目、千里山竹園1丁目、春日1丁目がありますが、通学距離を考慮して千里山竹園1丁目を変更することにしました。ただし、千里山竹園1丁目25～28番については、千里新田小学校に非常に近いことから変更しないこととしました。

3. 千里新田小学校の児童数の今後の予測

(1) 平成14年度 千里新田小学校 児童数

平成14年4月8日現在

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計
児童数	163	213	142	156	143	154	8	979
学級数	5	6	4	4	4	4	2	29

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
春日1丁目	15	17	9	11	12	13	77
春日2丁目	29	37	22	24	32	22	166
春日3丁目	10	20	14	11	12	12	79
春日4丁目	41	61	22	35	26	38	223
千里山竹園1丁目	14	22	25	15	14	16	109
千里山竹園2丁目	11	11	12	13	14	6	68
千里山西6丁目	47	47	42	48	34	47	265
計画道路より北側	(26)	(32)	(22)	(19)	(20)	(25)	(144)

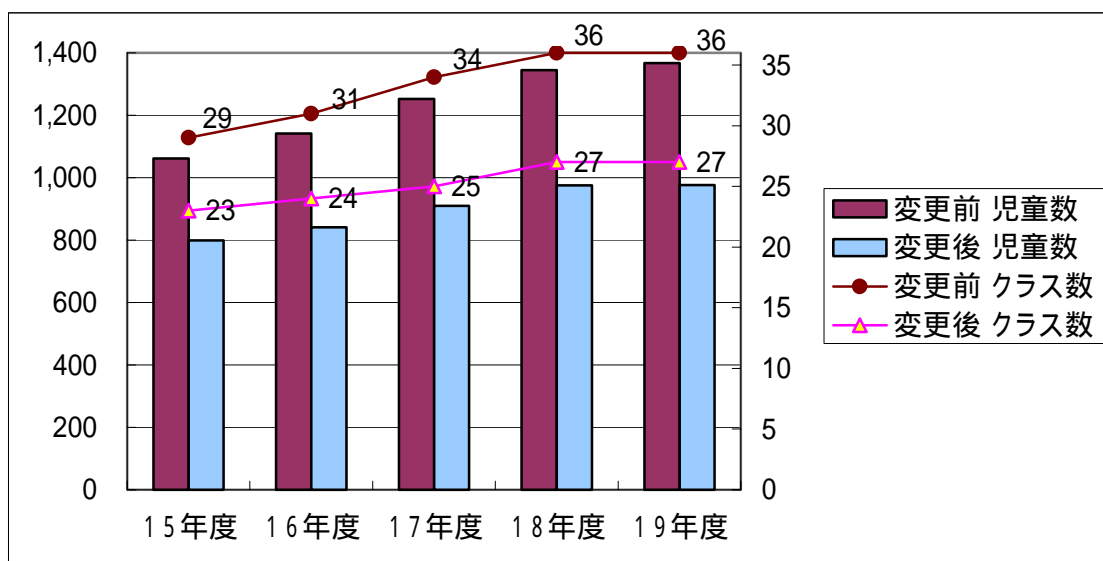
千里山竹園1丁目 (25～28番 を除く)	(13)	(22)	(25)	(15)	(14)	(16)	(105)
-----------------------------	------	------	------	------	------	------	-------

(2) 0～5歳の幼児数

平成14年4月9日現在

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
春日1丁目	14	21	18	29	20	10	112
春日2丁目	48	50	41	68	55	44	306
春日3丁目	27	25	25	22	26	17	142
春日4丁目	25	33	34	42	30	45	209
千里山竹園1丁目	33	29	33	35	30	29	189
千里山竹園2丁目	12	13	19	23	14	12	93
千里山西6丁目	45	54	51	50	46	49	295
計画道路より北側	(31)	(31)	(28)	(32)	(23)	(30)	(175)
千里山竹園1丁目 (25～28番 を除く)	(33)	(28)	(32)	(35)	(30)	(28)	(186)

(3) 千里新田小学校の今後の児童数



4. Q&A

(1) 校区変更をすればどんなメリットがありますか？

児童生徒数・学級数が減少することにより、例えば

一人ひとりの子どもに目が行き届きやすくなり、きめ細かな指導が行いやすくなります。

授業でコンピュータ室などの特別教室が活用しやすくなります。また、運動場や体育館などを広く使用できるようになります。

余裕教室ができることにより少人数による指導やグループ学習などの多様な学習活動に取り組みやすくなります。

昼休みなどに子どもたちが運動場で自由に動き回ることができるようになります。

運動会などの学校行事や学年行事を行う際に、活動内容の幅が広がります。また、学校行事などの際に、保護者席を確保しにくいといった状況が緩和されます。

(2) 変更先の学校の様子が知りたいのですが。

時期については未定ですが、変更先の学校の見学会を実施する予定です。実施する際には、児童生徒を通じてプリントでお知らせします。

(3) 変更先の学校に移る人数が少ないので、子どもが新しい学校にすぐに慣れるかどうか心配です。

最初は戸惑いがあるかもしれませんが、受け入れる学校においても子どもたちの不安な気持ちを受け止めて温かく迎えます。また、子どもたちが早く学校に慣れることができるよう仲間づくりや集団づくりに取り組みます。

(4) 校区変更の案を決定するにあたって保護者や地域の声は聞
かなかったのですか？

平成12年度に設置した「吹田市立学校適正規模検討会議」では、学識経験者や幼稚園・学校・PTA・地域諸団体の代表者、公募市民の方々から様々なご意見をいただきました。しかし、具体的な案を検討する段階で保護者や地域の意見をお聞きする場を設定することは、それぞれ一人ひとりの方が個別の事情や思いを持っておられることから、むしろ地域の中に対立や混乱を生じるのではないかと
の心配があり、教育委員会内部で検討しました。

(5) 在校生についても全員新しい学校に移るのですか？

早く適正規模に近づけるためには、在校生についてもできるだけ新しい校区の学校に移っていただきたいと思っておりますが、平成14年度(2002年度)の在校生については、希望される場合、卒業まで現在在籍されている学校に通学していただくことができます。

【例】

・千里山竹園1丁目(25～28番を除く)の子どもたちの場合

平成15年度(2003年度)時点の

0歳～5歳児	……	千里第三小	第一中
小学校1年生	……	千里第三小	第一中
小学校2～6年生	……	千里第三小または千里新田小	第一中
中学校1年生	……	第一中	
中学校2～3年生	……	第一中または南千里中	

・建設予定の都市計画道路豊中岸部線より北側地域の子どもたちの場合

平成15年度(2003年度)の

0歳～5歳児	……	桃山台小	南千里中
小学校1年生	……	桃山台小	南千里中
小学校2～6年生	……	桃山台小または千里新田小	南千里中
中学生	……	南千里中	

(6) 在校生がどちらの学校を選択するかはいつごろの時期に決めるの
ですか？

児童生徒数の変動が翌年度の各学校の教職員配置や学校体制に影響することから、できるだけ早く正確な児童生徒数を把握する必要があり、12月末までには決定をお願いしたいと考えています。11月頃に希望調査をする予定です。

(7) 兄弟姉妹を同じ学校に通わせることはできないのですか？

できるだけ早く適正規模に近づけるために、平成15年(2003年)4月以降に入学する児童は全員新しい校区の学校に通学していただくこととなります。従いまして、平成15年(2003年)4月以降に弟妹が入学されるご家庭で、どうしても兄弟姉妹を同じ学校に通学させたいという場合には、下のお子様に合わせていただきますようお願いいたします。

(8) 学校の選択制を実施する予定はないのですか？

学校の選択制については、子どもの個性に合った学校が選べるというメリットがありますが、同じ地域の中で子どもたちが別々の学校に通うことになり、地域の中で子どもたちの結びつき、親同士の結びつき、学校と地域の結びつきが弱くなることが懸念されます。教育委員会では、地域に根差した学校づくりを進め、学校・家庭・地域社会が一体となって地域ぐるみで子どもを育てることをめざしているところですので、現在のところ学校の選択制を実施する考えはありません。

(9) 今の学校で使用している体操服などの物品を新しく移る学校
でも使用できるのですか？

学校が替わっても、現在使っている物はそのまま使用できます。新たに購入していただく必要はありません。